修士論文（要旨）
2010 年 1 月

日本在住中国朝鮮族における 3 言語の使用実態
―　自然会話のデータから見たコード・スイッチング　―

指導　宮副ウォン裕子　教授

国際学研究科
言語教育専攻
208J4018
方　錦丹

目次

第 1 章　序論 1
1.1　研究背景と動機 1
1.2　中国朝鮮族の言語背景 1
1.3　本研究の構成 3
第 2 章　先行研究 4
2.1　CS の定義 4
2.2　文法的な観 5
2.3　機能的観点から見た CS 先行研究 18
第 3 章　研究概要と分析枠組み 12
3.1　本研究の位置付けと研究目的 12
3.2　研究方法 12
3.3　分析方法 14
第 4 章　分析結果(1)―　文法的な観点 18
4.1　全データにおける CS の文法的カテゴリー 18
4.2　CS の文法的特徴 19
4.3　ベース言語の有無における文法的カテゴリーの違い 25
4.4　まとめ 27
第 5 章　分析結果(2)―　機能的な観点 29
5.1　朝鮮語ベースの場合 29
5.2　中国語ベースの場合 36
5.3　日本語ベースの場合 41
5.4　特定できない混合ベースの場合 43
5.5　まとめ 45
第 6 章　総合考察 46
6.1　日本在住中国朝鮮族における CS 文法構造の特徴 46
6.2　日本在住中国朝鮮族における CS 機能の実態 49
6.3　まとめ 51
第 7 章　結論 52
7.1　結論 52
7.2　本研究の意義 53
7.3　今後の課題 53

【主な参考文献】 55
【巻末資料】 58
【謝辞】 61

要旨

現在、多くの留学生が日本に長期的に滞在し、勉強や研究に従事している。彼らの中には、日本語の学習前に、既に 2 言語や 3 言語の使用環境にいた学習者もいる。多言語が使われる環境出身の日本語学習者は、日本で生活している以上、母語と日本語を使わざるを得ない状況に迫られており、他国の人とだけでなく、同じ母語の人とコミュニケーション図る時さえ、コード・スイッチング（以下 CS）を頻繁に行っていることが観察される。

そこで、本研究では、朝鮮語・中国語・日本語の 3 言語を自由に操る日本在住の中国朝鮮族、12 名の自然会話を録音し、文字化した資料を分析・考察する。分析にあたって、データ全体を「朝鮮語ベース」、「中国語ベース」、「日本語ベース」、「特定できない混合ベース」の 4 タイプに分け、文法的な観点、機能的な観点から分析と考察を試みる。本研究では、中国朝鮮族の CS 使用実態を明らかにすることを目的とし、CS が文法上・機能上にどのような特徴を持っているのかを探ることを研究課題とする。

分析と考察の結果として、文法的な観点では、ベースとなる言語があるかないかに関わらず、CS は名詞、動詞などの単語レベルはじめ、節・文単位レベルなどさまざまな文法的単位で起きていることがわかった。また、ベース言語となる言語が異なることによって、各文法的カテゴリーにおける CS の生起率が異なることが明らかになった。

文法的特徴については、本研究では朝鮮語から中国語あるいは日本語への CS において、5 つの文法的特徴が観察された。特に、日本語・中国語の単語と朝鮮語の「ーhada（する）」が結合して使用する例が多く観察され、結合する際に、彼らにとって言語能力が高い朝鮮語が機能語として働き、言語能力が低い中国語と日本語が内容語として結合した。それから中国語と日本語が結合する際には、彼らにとって日本語に比べ言語能力が高い中国語が機能語として用いられ、日本語が内容語として結合した。このように、単語レベルの結合形式は言語能力と深く関わっていることが明らかになった。また、節・文単位の CS では、中国朝鮮族の特有な 4 つの引用文 CS パターンが観察された。その結合形式は 3 言語の言語能力に関係なく、どの言語も機能語的役割あるいは内容語的役割を果たしていることがわかった。

一方、機能的観点では、「朝鮮語ベース」「中国語ベース」、「日本語ベース」には、5 つの機能が観察され、ベースとなる言語が異なることによって CS 機能の割合に違いがあることが明らかになった。さらに、それぞれの CS 機能のバリエーションが異なることもわかった。「特定できない混合ベース」には、「理解促進機能」しか観察できなかった。このようにベースとなる言語の有無によって、異なる CS 機能が観察された。その原因として、語用論的転移、言語環境、文化的習慣が深く影響していると考えられる。

本研究の結果から、本研究の研究対象者のように日本語が第二言語としてではなく、第三言語として学ばれ、三言語或いは三言語以上の併用環境の中で使われながら習得することを考慮すると、日本語教育において、多言語習得やマルチリンガリズムの観点に立って教育を行うことが緊急性と重要性をもっていることが示唆された。多言語話者を学習者とした日本語教育を効果的進める際、本研究から得られた考察と知見は参考になると思われる。今後の課題としては、同一母語話者同士だけではなく、異なるスピーチ・コミュニティーの談話相手によって CS が文法上・機能上でどのように異なるかを課題として、その解明を試みたい。

主な参考文献

【日本語文献】

東照二（2000）『バイリンガリズム』講談社

宇佐美まゆみ（2002）「改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）」『多文化共生社会における異文化コミュニケーションのための基礎的研究　平成 13-14 年度　科学研究費補助金　基盤研究 C（2）研究成果報告書』研究代表者（宇佐美まゆみ）4-21

岡秀夫 （1997）「コード・スイッチングをめぐる諸問題」広島大学英語教育研究室（編）『松村幹雄先生ご退官記念論文集』淡水社 122-123.

ガンパーズ,ジョン（1982）井上等（訳）（2004）『認知と相互行為の社会言語学ディスコース・ストラテジー』松柏社

金英実（2009）「中朝バイリンガルの言語意識についての事例研究」『多文化接触場面の言語行動と言語管理 - 接触場面の言語管理研究 vol. 7 - 千葉大学大学院人文社会科学研究科プロジェクト報告書（218）』 千葉大学大学院人文社会科学研究科 33-42

金珍淑（2005）『朝・中・日 3 言語併用者のコード・スイッチングー日本在住朝鮮族の言語　　運用に注目してー』茶の水女子大学修士論文

金美善（2003）「混じりあう言葉ー在日コリアン 1 世の混用コードについてー」『言語―特集 移民コミュニティーの言語』第 32 巻第 6 号、大修館書店、46-52

権寧俊（2005）「朝鮮人の『民族教育』から朝鮮族の『少数民族教育』へ」文教大学国際学部紀要、第 15 巻 2 号 pp185－213

郭銀心（2005）「帰国子女のコード・スイッチングの特徴ー在日 1 世と韓国人留学生との比較
を中心にー」『在日コリアンの言語相』和泉書院、159-193

スィリポーン,ャムポーンサイ（2003）「タイ人留学生のコード・スイッチングの実態ー文法的・機能的観点から注目してー」お茶の水女子大学修士論文

スペンサー＝オーティ,ヘレン（編著）　浅羽亮一（監修）、田中典子・津留崎毅・熊野真理・福島佐江子（訳）（2004）『異文化理論の語用論』研究社　84-112

高見澤孟等（2001）『はじめての日本語教育[基本用語辞典]』アスク 205.

谷脇道彦（1988）『日本語の文法』書房 103

陳麗君（1999）「台湾のニ言語話者におけるコード・スイッチングの要因ー場面と属性を中心にー」『現代社会文化研究 No.16』潟大学大学院現代社会文化研究科、21-52

陳麗君（2001）「台湾人の会話における一方進行のコード・スイッチングー「感性的な語」・「語」によるコード・スイッチングー」『現代社会文化研究 No.22』潟大学大学院　現代社会文化研究科、237-254

陳麗君（2002）「コンテクストからみたコード・スイッチングの構造 ー台湾人バイリンガリズムの場合ー」『南台応用日語学報 第 2 号』4-98

都恩珍（2000）「日本語-韓国語バイリンガルによるコード切り替え」『日本学報』Vol.45 No.1、19-32。

長友和彦（2003）『三言語併用環境における日本語の発達に関する研究』平成 14～15　年

度科研（萌芽研究番号　14658077）研究成果報告書
ナカミズ,エレン（2003）「コード切り替えを引き起こすのは何か」『言語―特集 移民コミュニティーの言語』36、大修館書店、53-61
任栄哲（2003）『在米韓国人及び中国朝鮮族の言語生活』「環太平洋の言語」成果報告 B12 大阪学院大学
宮下尚子（2007）『言語接触と中国朝鮮語の成立』九州大学出版会
服部圭子（2001）「接触場面における日本語非母語話者のコード・スイッチングー機能を中心にー」『大阪大学留学生センター研究論集』（多文化社会と留学生交流）第５号、39-58
方淑瑩（2008）『ある在台日本人のマルチリンガルにおける言語現象についての事例研究ーコード・スイッチングを中心にー』東吳大學日本語文學系碩士論文
柳川子・楊紅（2004）「中国語会話によるコード・スイッチング台湾人日本語学習者の会話データに基づいて」『三言語併用環境における日本語の発達に関する研究』、第 2 言語習得―教育の研究最前線、100-113
ロメンイン,スザーン（著）、土田滋・高橋留美（訳）（1997）『社会のなかの言語』三省堂

【中国語文献】
关辛秋（2001）『朝鮮族双语现象成因论 』北京民族出版社
李楚成（2003）「香港粵語與英語的語碼轉換」『外語教學與研究 第 35 卷 第 1 期』、13-20

【英語文献】
Auer, p.(1995) The pragmatics of code-switching. In L. Milray & P. Muysken (eds) *One Speaker, Two Languages: Cross-disciplinary Perspectives on Code-switching*. Cambridge: Cambridge University Press, 115-135.
Andersson, U. &　Andersson, S. (1999) *Growing up with Two Languages*. MFG Books Ltd.
Cook, V. （2001）*Second Language Learning and Language Teaching*. NY: Oxford University Press.
Faerch, C. & Kasper G. (1983) Plans and strategies in foreign language communication. In C. Faerch & G. Kasper (eds) *Strategies in Interlanguage Communication*. UK: Longman, 36-7.
Gardner-Chloros, P.（1995）Code-Switching in community, regional and national repertoires: The myth of the. discreteness of linguistic systems. In L. Milroy & P. Muysken(eds) *One Speaker, Two Languages: Cross-disciplinary Perspectives on Code-switching*. Cambridge: Cambridge University Press, 68–89.
Gumperz, J. J.(1982) Conversational code-switching. In J. Gumperz (ed) *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press, 59–99.
Li Wei (2002) What do you want to say? On the conversation analysis approach bilingual interaction. *Language in Society*, 158-180
Legenhausen, L. (1991) Code-switching in learners' discourse. *International Review of Applied Linguistics*, 29, 61-73.

Myers-Scotton, C. (1990) Code-switching with English: Types of switching, types of communities. *World Englishes*, 8, 333–346.

Nishimura, M. (1995) Varietal conditioning Japanese/English code-switching. *Language Sciences*, 17, 123–145.

Nishimura, M. (1997) *Japanese/English code-switching: Syntax and pragmatics*. NY: Peter Lang.

Poplack, S. (1980) Sometimes, I'll start a sentence in Spanish y termino en Espanola: toward a typology of code-switching. *Linguistics*, 18, 518–618.

Romaine, S.（1989）*Bilingualism*. Oxford: Oxford University Press.

Sankoff, D. & Poplack, S. (1981) A formal grammar for code-switching. *Papers in Linguistics*,14,3-46

Taylor, D. M. (1991) The social psychology of racial and cultural diversity. In A. G. Reynolds（ed）*Bilingualism, Multiculturalism and Second Language Learning*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erldaum.

Tarone, E. (1983) Some thoughts on the notion of communication strategy. In F. Claus & K. Gabriel（eds）*Strategies in Interlanguage Communication*. UK: Longman, 61-67.

Yoon, K. K. (1991) Bilingual pragmatic transfer in speech acts: bidirectional responses to a compliment. In L.F. Bouton & Y. Kachru (eds) *Pragmatics and Language Learning*. Vol.2. Urbana: Division of English as a second Language, University of Illinois at Urbana-Campaign, 75-100